第７回金浦中ブロック小中一貫教育校整備検討委員会会議録

日 時　 令和５年３月２３日（木）１３時００分～１４時３０分

場 所　 笠岡市中央公民館　２階　教育委員会会議室

会 議 日 程

１　開　　会

２　あいさつ

３　議　　事

（１）前回の整備検討委員会からの修正について

（２）配置計画及び平面案の見直しについて

（３）基本計画の概要版について

（４）今後の整備検討委員会について

４　閉　　会

出席者

（委員長）佐々木伸子

（委員）池田哲哉　藤井清二　山下恭司　高木浩志　徳山功一　荒川光平

　大友萌　軒良子　花本弥生　川上智子（途中出席）

（事務局 教育委員会）

教育長　岡田達也（途中退席）

教育部長　森山一成

教育総務課　課長 松尾千鶴　　課長補佐 藤代幸弘　　主幹 福本彰弘

学校教育課　課長 槙野英一　　参事 平田日出子

都市計画課　課長 竹内一成

（(株)日総建　ＷＥＢで参加）　勝山聡美　日下部寛之　吉川文乃

１．開会（１３時００分）

事務局が第７回「金浦中ブロック小中一貫教育校整備検討委員会」の開会を宣言。

２．開会のあいさつ

岡田教育長が開会のあいさつをする。

３．議事

　　　佐々木委員長が議事進行

（１）前回の整備検討委員会からの修正について

日総建　　　「業務報告書」（抜粋）に基づき説明。

　　　　　　　　配置計画について

・前回の検討委員会で歩行者と自転車を別の出入口でとの意見があった

ため，正門の横に歩行者専用の出入口を配置した。

　　　　　　　平面計画について

　　　　　　　・前回案は西側に特別教室が集まっていたが，インクルーシブ教育の観

　　　　　　　　点から，新設棟に東側１階に別室①を設け，普通教室に近い位置にし

た。

・小学生用の特別支援教室を１階から２階の図書室南側に変更し，普通

　教室に近い位置にした。これに伴い，少人数教室の位置を変更した。

　　　　　　　・１・２年生と３・４年生の倉庫の位置を普通教室の真ん中に変更し

た。

　　　　　　　・多目的スペースについて１・２年生の前は幅４．５ｍ，３・４年生の

　　　　　　　　前は幅５．５ｍとし，低学年のあそび場は幅１９ｍとしている。

　　　　　　　造成計画について

　　　　　　　・松川川側，安原川側ともに６０㎝の擁壁を設置する。

委員長　　　　　擁壁を設置して敷地の中に土砂が入らないようにした。教室の配置を

　　　　　　　インクルーシブを考慮し，特別支援と通常学級の子どもが交流しやすく

した。倉庫は倉庫以外に取り出しなど別のことにも使えるので，できるだけ教室からアクセスしやすいところにした。というのが主な変更点である。

　委員　　　　　　特別支援教室だが，複数の学年の子どもたちが入ることになるのか。

例えば１年生と５年生の子どもなど。

　事務局　　　　　いろいろな学年の子どもが入ると想定している。１階の別室の利用も含めて，工夫していきたい。

　委員長　　　　　おそらく今後２部屋では足りなくなると思う。柔軟に対応してほしい。今回の案について，既存の中学校校舎も活用し，各学年のまとまりもあり，交流がしやすく，繋がりができ，とてもいいものができたと思う。低学年のあそび場スペースもいい。

（２）配置計画及び平面案の見直しについて

　事務局　　　　　これまで基本計画について協議を行ってきたが，建物が土砂災害警戒区域内にあるとのことで安全対策を検討してきた。具体的には，敷地付近の土石流の到達高さが１０～２０㎝と想定されているが，学校敷地は現況で２０～６０㎝高くなっている。建物部分の敷地は，土砂災害・浸水対策として１ｍ程度の嵩上げを行うことで，土石流等の被害が起きないよう対策している。さらに敷地に土石流が流れ込まないように土留めとなる擁壁の整備も計画しており，擁壁の高さ・構造については，基本設計・実施設計段階で想定される土石流の体積・土圧等の検討を行って決定したい。土石流対策として，県が作成したハザードマップの想定を超えるような災害が起こった場合でも安全確保ができるように検討してきた。

　　　　　　　　　しかし，議会から「新校舎をあえて土砂災害警戒区域に建てなくてもいいのではないか。より安全な場所に建設すべきではないか。」とのご意見を多数いただいており，また市役所内の専門部局である建設部からも別の場所を選択し，安全性を高めるべきとの助言があった。そのため，教育委員会内部で検討の結果，建設部・議会からの意見を踏まえ，より安全な場所への建設に向けて，配置計画・平面計画の見直しをしたいと考えている。

　　　　　　　　　そこでこれまで皆さんからいただいたご意見・コンセプト・必要な諸室など機能的な部分を取り入れながら，より安全性を高めた３つのプランを提案したので，委員の皆さんのご意見を伺いたい。

　　　　　　　　資料「配置計画比較表」と「プランＡ，Ｂ，Ｃ」に基づき説明。

　　　　　　　　　プランＡについて，今まで検討してきたプランをもとに，新設棟東側の北側部分を南側の２階に移動し，土砂災害警戒区域にかからないようにするもの。

　　　　　　　　　プランＢとＣについて，新設棟を敷地の南側に移すことで，土砂災害警戒区域から大きく離れることとなり，より安全・安心を高めるプランとなっている。

　　　　　　　　　配置計画比較表をご覧いただきたい。「施設一体型のメリットを発揮した学校づくり」について，プランＣでは既存校舎と屋内運動場の位置の関係上，×となっている。「安全・安心な学校づくり」について，プランＢとＣでは土砂災害警戒区域からの距離で安全性が高くなるが，プランＣは既存校舎と屋内運動場に囲まれた形になり，学校全体の見通しが悪くなり管理上の問題が生じてくる。

　　　　　　　　　機能面・利便性に関して，プランＡでは３・４年生を２階に上げることにより，前期が１階と２階に分断され，３・４年生が運動場に出にくくなるという点で影響があるが，それ以外はこれまでの計画のままとなる。プランＢでは中学校棟との距離が離れるため，小中のつながりや前期・中期・後期のまとまり，校門から昇降口までの動線について検討が必要になる。また，運動場が北側にあるため日陰の影響も出てくる。プランＣでは，機能面・利便性の確保は難しくなる。

　　　　　　　　　運動場の面積について，文科省の設置基準では令和８年度に予測される児童生徒数よりも多めの人数で算定したところ，小学校で３，０００㎡，中学校で３，６００㎡の合計６，６００㎡が必要となってくる。プランＡで１０，９４０㎡，プランＢで１２，５２０㎡，プランＣで

１４，４１０㎡となっており，必要面積を十分に満たしており，小中学校が一緒に使用する場合にも支障がない広さになっている。

　基本計画では，整備コンセプトに基づき，必要な機能や施設の特色，敷地全体の配置計画や動線計画，校舎内のゾーニング計画に関する基本的な考え方を纏めてきた。今回の基本計画は，これまで協議してきた新築校舎を敷地の北側に配置する計画とし，今年度末で完成となる。しかし，配置計画や平面計画の見直しについて，来年度以降に進める基本設計・実施設計の中で十分な検討を行い，今まで皆様から頂いたご意見や学校の施設，機能的な部分について，可能な限り修正後の案に引き継がれるようにしたいと考えている。

　委員長　　　　　これまで皆さんと協議して作ってきた基本計画だが，議会や建設部か

らより安全な場所に建設した方がいいとの意見が多数出ているとのことである。これまでのプランは子どもの動き，小学校と中学校の一体性，子ども同士のつながりを重視した理想的なプランだと思う。しかし安全性という点で，理解が得られにくいということ。安全についても盛土や擁壁という対策を考えていたが，検討が必要との指摘をいただいた。

　　　　　　　　　只今，事務局から土砂対策により配慮した３つのプランの説明があった。皆さんのご意見を伺いたい。

　委員　　　　　　安全という意味では土砂対策ばかりでなく，水害・南海トラフの津波

などあるが，ほかの安全面はどういう風に考えているか。また，議会か

らは金浦中の土地から別の土地に移せということか。この土地で建てれ

ばいいということか。

　事務局　　　　　津波については敷地内が浸からないようになっているとの前提で，議会に話をした。議会からは「新築棟をあえて土砂災害警戒区域に建てる必要があるのか。ほかのエリアに建てることを検討したのか。」との意見があった。「それをすることにより運動場が確保できないのであれば，周りの農地を買って整備するといったことを検討したのか。」との意見があった。議会として土地を買ってという話は総意ではないが，総意としては，あえて土砂災害警戒区域に新築の建物を建てないといけないのかとの意見だった。そのため，再度検討願いたいとのことだった。

委員長　　　　　敷地の南側に校舎を持ってくると運動場に影ができるので，当初考え

るときに，敷地の南側に新築棟を建てることは検討しなかった。そのため，北側に建てるプランを中心に検討してきた。土砂災害に対しては盛土で大丈夫だと思ったが，議会からはエリアに入っているとのことで，再検討との意見をいただいた。

　委員　　　　　　敷地が浸水しない対策がとってあるというのは，盛土をするという　ことか。

　事務局　　　　　既存の校舎部分の敷地は，現状で校門より１ｍぐらい高くなってい

る。平成３０年の豪雨の時も校舎側の敷地が高かったので，建物は浸水していない。今回，新築する小学校棟は同じぐらいの高さにする予定である。校舎周辺のみ盛り土を考えている。

事務局　　　　　議会への説明では，「浸水対策が図られていること，津波の想定からも外れいていること，土砂災害警戒区域が敷地の北西と北東にかかっているので校舎の嵩上げや擁壁を作ること」を説明した。しかし，あえてこのエリアに建てる必要はないのではとの意見が多数あった。なお，運動場は，盛り土を考えていない。

　委員　　　　　　プランＡ・Ｂ・Ｃから選ばないとしようがないという話になっているのか。

事務局　　　　　プランにあるようなエリアに建てるという方向しかないと思っている。

事務局　　　　　必ずこのプランというわけではないが，大きく分けるとこういった方法しかないのではと考えている。皆さんで協議していただいた教室の数や機能は必要と考える。そして，可能な限り中学校棟との結びつきを考えた中で，北東エリアを外すというのは条件として入れていかなければいけないと思う。皆さんに機能的な部分は検討していただきたい。

委員　　　　　　警戒区域内であるが擁壁を作るという説明は，議会には伝わってないのか。

事務局　　　　　説明をさせていただいた。

教育長　　　　　安原川について，砂防ダムの設置を県に要望するということ，嵩上げをすること，擁壁をすることで対策をするということで，事務局としてはご理解がいただけるように説明をした。ただ，議員の皆さんからのご指摘で，それで十分に安全であると言えるのかという議論になってくると，１００％安全とは言いきれない。どれだけ安全対策を意識して事務局がやってきたかということが問われているのだと思う。そのなかで，学校建設を進めるには予算をつけていただく必要がある。これまで６回の検討委員会で頂いた意見を尊重していきたい。整備コンセプトや子どもの動線はできるだけ活かしていきたいと思っている。ただ場所を変えることで校舎の配置が若干変わり，動線等の見直しが必要となってくる。そのため３つの案をお示しした。

　　　　　　　　土砂災害警戒区域にもう一歩踏み込んだ形の案を，皆様のご理解をいただいたうえで提示をしなければいけないという状況になっている。

委員長　　　　　委員の皆さんは府中学園を見て，現場の子どもの動きなどを考えてこの案を作ってきた。議員さんは図面を見ると，どうしても心配が先に立つのだと思う。子ども達を一番に考えた整備検討委員会で考えた案に間違いはないと思うが，それだけでは進んでいかない。多くの人の不安が消える形にもっていかなかなければいけないのがこれからの課題だと思う。今回のプランは既存校舎を利用し，今後子どもが少なくなっても，新築棟に集約ができるというもの。全国的にも注目を集めそうないいプランである。それを踏襲して，粘り強く次につなげたい。

委員　　　　　　以前，通学時間外ではあったが，通学路が大雨が降った時に土砂崩れしたことがあるので，通学路の土砂災害も心配である。擁壁を作ったり，嵩上げをしたりすると聞いたが，今後，想定外の大雨が降って通学路が土砂に埋もれる可能性もある。土砂災害の予測はつかないと思うが，大雨が降ったあと，この山は崩れないということが科学的に確認できないのか。

事務局　　　　　土砂災害警戒区域の指定については，県が一定の基準のもとに想定したものである。想定外の雨が降った時に，土砂崩れが起きるかどうかの判断は難しい。

事務局　　　　　土砂災害警戒区域というのが，市内に４６１か所ある。正直なところ，そこも含めて有効に使わないと笠岡市の発展はないのかと思う。子どもたちが使う施設は，最大限の安全対策が必要と考える。学校の敷地内や通学路についても，できる限りの安全対策をしていきたい。７時の時点で警報が出ていたら休校になる。また，こういうエリアの中にある学校については避難確保計画を作り，避難訓練をして対策している。ソフト面でも対策をしていきたい。

委員長　　　　　どうやって災害と向き合って，よりよい物を作っていくかということだと思う。通学路の安全については今後検討が必要だと思う。

委員　　　　　　コンセプトにある「安全安心な学校づくり」をする必要がある中で，安全・安心が△の学校を作るというのは，検討が必要だと考える。保護者や地域の方に安心安全なものを提供するのが我々の大きな務めだと思う。

　　　　　　　　プランＡは警戒区域に近く。ＢとかＣが土砂災害警戒区域から離れていることで本当に安全なのかと思う。プランＡのなかで，「安全安心な学校づくり」が△なのを○にしていくように何とか知恵を出し合えないものかと思う。比較表の○と△の違いはどういう基準なのか。

教育長　　　　　根拠的なものはなかなかない。土砂災害警戒区域は県の予測だが，本当にこの通りになるかどうか起こってみないと分からない。そうなると，警戒区域から離れている方が安全性が高いという感覚的な理解になると思う。また，６０㎝の高さがあるため，校舎の敷地には土砂が侵入しないように思うが，確固たるデータがない中で安全対策が議論されている。そうなると，より感覚的な部分になる。議会には，元々の案でご理解いただきたいと説明をしたのだが，土砂災害警戒区域というものが一旦出てしまうとなかなか難しかった。事務局でも悩みながら新しいプランを作った。

　　　　　　　　検討委員会の皆さんには，今年になってから土砂災害警戒区域の説明をした。最初の段階から，浸水対策ばかりでなく，土砂災害のことも話をしておけばこうはならなかったかもしれないが，そこに対する事務局の意識が低かったことによるものである。それで感覚的な不安感が大きくなったと思うので，反省している。

委員長　　　　　市内に４６０か所ある土砂災害警戒区域を避けることは，なかなか難しい。災害を技術で克服できるという形にしないといけない。今の時点では，市民の理解が得られていないが。

　事務局　　　　　以前お話ししたときに，松川川は砂防ダムが建設されるので，安全対策がより図られて，完成は令和１１年度中となっている。そのため，こちらのエリアについては議会からは指摘されなかった。ただ，北東部分については，県に要望を出して，いろいろな対策をしてもらうという確約ができていない状態である。こちらについての不安がぬぐいきれいていないのが，反対する方たちの意見であった。

委員長　　　　　安原川についても，子どもたちによい教育環境を提供するために，砂防ダムを作る様に県に陳情に行くことはできないのか。

事務局　　　　　実際にこのエリアに建てるとなったら県に要望をもっていくことにな

る。それからスタートとなる。対応をしてくれると思うが，時間がかかると思う。北西部分が令和１１年度なので，それよりもさらに遅くなる。先に砂防ダムの話ができていたら，ここでもよかったということになっていたかもしれない。

委員長　　　　　確かに議会の方が見たらエリア以外にも土地があるという指摘があるとは思うが，日本には方位というものがあり，北向きの建物で子どもがのびのび育つのかと思う。

委員　　　　　　プランＣは「職員室から学校全体を見渡せるか」が×になっているが，「安全・安心が学校づくり」が○になっている。職員室から学校を見渡せられないなら，安全安心といえるのか。そうなるとプランＢしかない。

委員長　　　　　プランＡも捨てがたいが。プランＢになると設計変更になり，大幅な見直しが必要になる。

委員　　　　　　既存の中学校も土砂災害警戒区域にかかっているが，それは議会からの指摘はないのか。

事務局　　　　　中学校は建てたときに土砂災害警戒区域の指定はなかったが，そのあと指定があった。議会からは，これから建設するときに，土砂災害警戒区域内に建てるのはどうかというご指摘をいただいている。

事務局　　　　　中学校棟側にも擁壁を作って安全性を高めたい。

教育長　　　　　議員の皆さんも市民の皆さんのご意見を集約して，発言されていると思う。より市民の皆さんにご理解いただくような内容にしたい。

　　　　　　　　また，一体型一貫校は他の場所でとは考えていない。事務局としては課題を何とかクリアして，金浦中の場所に最初の一貫校を建てるという方針は変わっていない。

日総建　　　　　今までの議論がひっくり返って，我々としても申し訳ないと思っている。議論してきた内容は共通して気にしていかないといけないと思う。プランＢにするとしても，今までの議論が無駄かといえばそうではないと思う。今までの皆さんの意見を活かしたものにしていきたい。北採光になるという点も，いろいろ確認をしていきながら，工夫をしていけば改善できると思うし，技術的にクリアできると思う。新たなプランをもとに内容を検討し，いい学校にしていく余地は十分あると思う。

委員　　　　　　プランＢは，今まで検討してきたものとあまり変わらないと感じる。例えば，グラウンド側の図書室を北に伸ばして，既存の北棟につなげて周遊性を高めるようにする。北門は歩行者専用入口にして，その西側に自転車専用入口を作るなどすれば，今までのプランに似たようなものは作れるのではないかと思う。また，小体育館を上か下にずらして，学童を作ったらいいと思う。そうすれば，テニスコートを児童クラブ候補①のところに設置することにより，敷地内での完結することができるようになると思う。

委員長　　　　　プランＢの配置をちょっと工夫すれば，何とかなると思う。大幅な設計変更は必要になるが。

　　　　　　　　基本計画については，従来までの新設校舎を北側に建てる案で作成し，その最後に「土砂災害警戒区域の対応について，プラン変更も含めて検討を行う」という内容の文言を入れて，粘り強く金浦中の場所に校舎を建設したいと，事務局からは聞いている。

本日，皆さんからいただいたご意見や，今まで協議してきた基本計画のコンセプト・機能面などを十分に取り入れて，来年度以降，基本設計・実施設計につなげていっていただければと思う。

（３）基本計画の概要版について

　日総建　　　　資料「金浦中学校ブロック小中一貫校基本計画（概要版）」に基づいて説明。

　委員　　　　　　盛土の１０５㎝について，現在，すでに６０㎝ぐらい高くなっている。それからさらに１０５㎝盛土をするということか。

　事務局　　　　　今の６０㎝も含めて，１０５㎝である。

　日総建　　　　　今の正門の高さから１０５㎝になるということである。

　委員　　　　　　新たに盛るのは，４５㎝ということか。

　事務局　　　　　そのとおり。

　事務局　　　　　６０㎝というのは一番高いところである。低いところは２０㎝ぐらい。そのため，８０㎝嵩上げするところと，４０㎝のところが出てくる。

　委員　　　　　　体育器具庫は盛土の範囲から外れているのか。

　日総建　　　　　体育器具庫は校庭側に配置するとのことで，盛土の範囲から外れる。

　委員　　　　　　前回の大雨の時，浸水して，私は後片付けに行った。

　事務局　　　　　盛土はしないが，棚の高さを調節することで，マットなどの水を含むようなものは，上に置くように配置を工夫したいと思いっている。

　委員長　　　　　整備検討委員会は，今年度最後なので，１人ずつご意見をいただきたい。

　委員　　　　　　造成計画の南棟と北棟の間の矢印があるが，このあたりは盛土をしないのか。運動場の真ん中あたりが結構，水で浸かるが。

　委員　　　　　　中央の道は，両脇に側溝があるが，土が詰まっていて機能していない。水が溜まってある程度の高さになったら，ポンプで吸い込むようになっているので，水が農免道側に出るようになるが，なかなか抜けきらないのが現状である。大雨が降ると真ん中のアスファルトが水で浸かってしまう状態になる。側溝をきれいにすれば，改善すると思う。

委員　　　　　　この検討委員会のなかで，グランドの水はけが悪いからその対策をするという話があったと思うが。

事務局　　　　　１ｍ掘ったら粘土質が出るような土壌なので，土壌改良するなどの対策について，今後の実施設計の中で検討したいという説明をしている。

　委員　　　　　　校舎完成イメージを見て，南側が開けた土地にグラウンドがあるのは素敵でとてもいいと思う。子どもたちが学校に行きたくなるようなプランである。それをプランＢ・Ｃにするのは，とてももったいないと思う。もし安原川の砂防ダムができれば解決するのであれば，プランＡで行けたらいいと思った。

　　　　　　　　　保護者間で話をするとき，水害や土砂災害についてよくわからないので不安であるという方が多いので，不安がなくなる様に詳しく対策の仕方など説明をしてくれれば納得する保護者も多いのではと思った。

委員　　　　　　学童クラブの候補地はまだ①か②になるか決まっていないのか。学童クラブは北側の敷地ではなく，学校敷地内にある方が助かる。そうなるとお迎えの時，車はどこに停めることになるのか。

委員長　　　　　送迎については，北側に車を止めることになるのでは。そうなると学校内は車の出入りがなく，安全が保てるが，今後決めていく。

委員　　　　　　校舎完成イメージを見たら，今までのプランが見た目がいいと思うが，土砂災害警戒区域のことを聞くと，将来，あのときにあの校舎の形を選んだから，土砂崩れで校舎がつぶれたとなったら嫌だと思った。ただ，自分の家もハザードマップで浸かるようになっている。そういったことを考えていたら切りがないと思うし，いざ起こった時にどのように避難するかを日ごろから訓練しておけばいいのかとも思う。はっきりとどちらがいいのか答えは見つからないが，これから考えていきたい。

委員　　　　　　安全ということが学校を預かる校長としては一番気になる。しかし，機能面などもいい形になればと思っている。

委員　　　　　　せっかく検討してきた配置図なので，何とか土砂災害警戒区域の対策ができるのであれば，その案で行ってほしい。

委員　　　　　　現在，金浦中では災害に備えた避難訓練を行っている。土砂災害警戒区域内に校舎を建てるのがいいかどうかと迷っている。ただ，今まで皆さんと議論してきたプランはとてもいいものができたと思っている。それが今後変更になると，位置ばかりでなく，中の教室の配置も変えていかないといけない。子どもたちに一番安心・安全になる様に今後考えていきたい。

委員　　　　　　地域の住民説明会でも安心・安全が気になるとの意見が出ていた。嵩上げや土砂災害対策ということで，私はプランＡがいいとは思うが，なかなか皆さんに安全・安心を理解してもらうことが難しいと思う。そうなるとプランＢにならざるを得ないのかと思う。

委員　　　　　　小学校の校歌について，山陽新聞に校歌登録の記事があったらしい。県立図書館のデジタル岡山大百科に登録できて，いつでも校歌が聞けるというもの。陶山・金浦・陶山小の校歌を残してほしい。

事務局　　　　　校歌はデジタル大百科に登録すれば，いつでもだれでも聞くことができる。登録することはそんなに難しいことではないので，また学校と相談しながら進めていきたい。

委員　　　　　　皆さんと１年間協議して形になったが，ワクワクして毎回来させていただいた。最後に考えないといけないことが出てきた。今後も完成するまで順調にいくのは難しいと思うが，議論をぶつからせながらしっかり協議していきたい。校舎ができてくれば，制服など，さらに細かい協議が必要になってくる。概要版の教室の数などについて，これからの学校は従来使っていたものが使われなくなったり，こんな環境がさらにあった方がいいというものが出てくると思う。例えば府中学園の図工室はほぼ機能していない。うまく使えばよかったのかもしれないが，小学校は教室で活動することが多い。コンピューター教室のようなものも一人一台端末の普及で使わなくなった。一つ一つ見ていったときに，ここは考え直した方がということをしっかりシミュレーションしたうえで作っていく必要がある。

委員長　　　　　基本計画はとてもいいものがまとまったと思う。ここからもう一歩検討していかなければいけないことが出てきたので，引き続き進めていくということになると思う。

（４）今後の整備検討委員会について

　事務局　　　　　令和４年度の整備検討委員会は，今回で最後となる。現在の委員の任期は，Ｒ５年３月末までとして委嘱状を交付している。「笠岡市小中一貫教育校整備検討委員会設置要綱」の第４条に「委員の任期は，小中一貫教育校が設立される日までとする。」と定められている。

令和５年度以降の整備検討委員会については，令和４年度のように定期的に全員集まって開催するのではなく，意見を聞く必要が生じた場合に，例えば小中学校の校長先生だけとか，保護者の方だけのように，協議内容に応じて，随時で対象者を絞って開催したいと考えている。

事務局としては，４月以降も，現在の委員さんに継続して委員を委嘱したいと思っているが，保護者代表の方などで年度替わりで変更がある場合は，教育総務課まで次に委員になっていただける方のお名前・ご住所・ご連絡先をご連絡いただきたい。なお，本日欠席の方につきましては，別途，文書にてご連絡したい。

４　閉会（１４：３０）